5．ＰＦＩによる施設整備で取得した資産のサービス部分の対価の支払予定額は以下のとおりです。なお、支払予定額は事業期間中の物価変動に対応して改定されます。　（単位：千円）

件　　名	一年以内支払予定額	一年を超える支払予定額
京都大学（南部）総合研究棟の施設整備事業	26,023	143,128
京都大学（桂）総合研究棟Ⅴ、(桂）福利・保健管理棟施設整備事業	148,342	815,885
京都大学（北部）総合研究棟改修（農学部総合館）施設整備等事業	83,489	542,680

6．利益剰余金のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの

⑴　国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの

附属病院に関する借入金の元金償還額の累計	27,024,570千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費の累計	14,407,835千円
利益剰余金に与える影響額（差引き）	12,616,735千円

⑵　国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの

法人移行時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額の累計	2,431,188千円

⑶　国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる未収附属病院収入のうち、国からの出資でなく譲与としたことによるもの　982,387千円

⑷　国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる医薬品及び診療材料について、国からの出資でなく譲与としたことによるもの　745,226千円

16,775,537千円

Ⅳ．損益計算書

1．当期総利益のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの

⑴　国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの

附属病院に関する借入金の元金償還額	2,981,020千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費	1,386,686千円
当期総利益に与える影響額（差引き）	1,594,334千円

⑵　国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの

法人移行時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額	6,242千円
	1,600,577千円

Ⅴ．キャッシュ・フロー計算書

1．資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金　13,569,144千円

2．重要な非資金取引

現物寄附による資産の取得　3,918,388千円

Ⅵ．減損会計関係

1．減損を認識した固定資産

⑴　減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要　（単位：千円）

用　途	場　所	種　類	帳簿価額
敷地	京都府京都市	土地	34,153
通信設備	京都府京都市	建物附属設備	482
電気設備	京都府京都市	建物附属設備	2,342
研究室	京都府京都市	建物	46,157
ガス設備	京都府京都市	建物附属設備	6
電気設備	京都府京都市	建物附属設備	922
給排水設備	京都府京都市	構築物	3,137
職員宿舎	京都府宇治市	建物	12,707
職員宿舎	京都府宇治市	建物	9,986
給排水設備	京都府宇治市	建物附属設備	634
給排水設備	京都府宇治市	建物附属設備	422
下水道	京都府宇治市	構築物	867
職員宿舎	京都府南丹市	建物	3,046
給排水設備	京都府南丹市	建物附属設備	523

⑵　減損の認識に至った経緯

土地については、有効活用を図るために土地の等価交換を行った後の残地を売却するにあたり、使用しない決定を行ったため、通信設備については、地上デジタル放送化に伴って当該年度に除却するにあたり、使用しない決定を行ったため、その他の資産については、老朽化または改修工事等により当該年度に除却するにあたり、使用しない決定を行ったため、それぞれ減損を認識しております。

⑶　減損額のうち金額の主要な固定資産ごとの内訳及び回収可能サービス価額の算出方法の概要　（単位：千円）

用　途	種　類	損益計算書に計上した減損額	損益計算書に計上していない減損額
敷地	土地	—	1,366
通信設備	建物附属設備	—	15
電気設備	建物附属設備	2,121	—
研究室	建物	8,242	—
ガス設備	建物附属設備	2	—